



JAPAN FOUNDATION FOR
UNITED NATIONS UNIVERSITY

jFUNU Newsletter

公益財団法人 国連大学協力会

〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70

TEL 03-5467-1368 FAX 03-5467-1349

URL <http://www.jfunu.jp/> E-mail jf@unu.edu

CONTENT NO.30 2017年8月

- jFUNU STUDY TOUR in AICHI
- 国連大学サステナビリティ高等研究所大学院
学位授与式
- TOYOTA jfScholarship for UNU 奨学生
トヨタ自動車を表敬訪問

jFUNU STUDY TOUR

トヨタ自動車の高岡工場と名古屋城を見学



国連大学協力会では、国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラムで学ぶ学生のために、我が国を代表する先端企業の現場への見学会を毎年2回実施しています。今回は世界一ミスが少なく効率の良いことで有名な生産ラインと、地球に優しい自動車の開発でサステナブルな社会の実現に取り組むトヨタ自動車株式会社(本法人賛助会員)を訪れました。

(4面に続く)

8:00
新幹線で品川
から名古屋へ

9:30
名古屋到着！
初めての名古屋の
印象は
「大都会だなあ」

10:30
トヨタ会館
ミュージアム見学。
近未来の車に
ワクワク！

11:00
トヨタ自動車の企業哲
学の講義を受講。
環境に優しい
車の開発とは？

13:00
トヨタ自動車
高岡工場見学
世界一効率的な
生産ラインを
間近で見学

15:00
名古屋城見学
忍者と前田利家
に遭遇！？



国連大学サステナビリティ高等研究所 大学院プログラム学位授与式



修了証書を手にするMebeeloさんとMacnighさん(左から)



学生代表のスピーチ



感謝状を渡すDorjiさん



先生方と記念撮影

2017年7月10日(月)国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラムの学位授与式が執り行われました。インド、カメルーンなど6か国から7名の修士が、そしてブータン出身の博士が1名、この日誕生しました。花木啓祐教授(東洋大学情報連携学部)による基調講演にはじまり、Singay Dorjiさん(ブータン)とThilini Upeksha Kaluarachchiさん(スリランカ)が学生を代表してスピーチを行いました。2人ともjfScholarship奨学生で、彼らを含め4名の修了生がjfScholarship奨学生でした。レセプションではjfScholarship賛助会員として学生を支えてくださった日本企業を代表して日本電子株式会社の安井望氏(科学・計測機器営業本部)が学生から感謝状を受け取りました。

jfScholarship奨学生より「ありがとう」



Singay Dorji (Mr.)

འགྲུབ་ཀྱིན་ཆེ་ལགས།

博士課程を修めるにあたり、国連大学協会及びスポンサー企業の皆さまから奨学金の支援を受けることができましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。

私はブータン経済省のNational Center for Hydrology and Meteorology (Department of Hydro-met Services)に勤務しています。そこは、気象予報や水文地質学、気象に関するサービスを提供する機関です。私の博士論文は“climate downscaling and seasonal prediction using statistical models”で、実際に起きている持続可能性における問題について解決を模索するものです。私はこのテーマを追究することで、気候における影響評価技術の向上に貢献することができたと思っています。

国連大学協会の支援は世界中に持続可能な社会を作り、気候変動を緩和し、またそれに柔軟に対応する計画を作ることに大きな貢献をするものです。国連大学協会の支援が、これからも継続されることを願います。



Danish Ahmad Mir (Mr.)

شکریہ

国連大学協会とスポンサーの皆さまにこの場を借りて、2年間奨学金の支援をいただきましたことに御礼申し上げます。

このような貴重な機会をいただけたことに感謝しています。国連大学で修士課程を修めるにあたり、奨学金やローン等経済支援に非常に頼らざるを得なかったため国連大学協会の奨学金は大きな援助となりました。

国連大学で学んだ日々はまさに夢のようでした。教室での学びを越え、実際の生きた研究に参加することができ、外交官からビジネスリーダーまでサステナビリティに従事するあらゆる素晴らしい人とめぐり合うことができました。

今日、国連大学を卒業しますが、この大学、ここで学んだこと、そして国連大学協会は人生の糧として、いつまでも私と共にあるでしょう。今日が終わりではないので、「さよなら」は言いません。これからは、支える側として、国連大学協会へ学びを還元したいと思います。



Thilini Upeksha Kaluarachchi (Ms.)

ස්තූතියි

国連大学協会とスポンサーの皆さまへ、2年間奨学金の支援をいただきましたことを感謝申し上げます。

皆さまからの多大なる支援がなければ、日本のような国で勉強することはかないませんでした。また、名古屋への研修や高尾山などの素晴らしい企画をありがとうございました。日本での数々の思い出を作ることができました。また国連大学協会のスタッフの皆さんには生活面でも助けていただき、ありがとうございました。私は困ったことがあるとよく国連大学協会の事務局に行っていました。その度にスタッフの皆さんに助けていただきました。森常務にはいつも元気をもらっていました。

国連大学協会とスポンサー企業の皆さまのおかげで、非常に有意義な2年間を過ごすことができました。どうか、これからも国連大学サステナビリティ高等研究所の学生を応援してください。

TOYOTA Scholarship for UNU奨学生

Mebeelo Kafungwaさん トヨタ自動車を表敬訪問

7月5日、TOYOTA jfScholarship for UNU奨学生のMebeelo Kafungwaさん(ザンビア)が2年間の学生生活を支えてくださった感謝の気持ちを伝えるため、トヨタ自動車株式会社東京本社を訪れました。西田明生氏(渉外部渉外室長担当部長)と野一色守氏(渉外部渉外室担当課長)より温かい歓迎をうけ、緊張しながらも研究成果や今後の抱負について語りました。



西田氏と握手を交わすMebeeloさん

現在、ザンビアでは地方から都市部へ人口が流れているため、首都ルサカでは開発が進む一方、周辺の街では開発が進まなかったり建物の修繕が遅れたりという現状があるそうです。ザンビアの持つ豊かな自然と生態系を大切にしつつも、都市の開発を進めたいという思いから、修士論文”Integrated Spatial Modeling for Land Use Management: Addressing Challenges of Urban Sustainability”では、ザンビアの首都ルサカと同規模の人口を持つフィリピン・マニラでケーススタディを行い、都市開発を進めるにあたり、自然や生態系の保護を考慮するサステナブルな社会のあり方について模索しました。

明るく陽気なMebeeloさんは学生たちのムードメーカー的存在。学生の中でも一番多く授業を取るなど積極的に授業に参加していたようで、大学院も優秀な成績で卒業しました。卒業後は、政府機関や国際機関で研究者として活躍をしていきたい、と抱負を述べていました。対談の終わりには、トヨタ自動車の野一色氏から、「日本でのご修学に貢献できたことを嬉しく思います。帰国後、ますますご活躍されることを祈っています。卒業後もこのご縁を大切にしてくださいませ。」とエールが送られました。



ザンビア共和国って？

首都 ルサカ
人口1620万人、日本の約二倍の広さの国土を持ち(752.61千平方キロメートル) 大自然に恵まれた国。また73の部族から成り立つ多民族国家であり、それぞれの部族の言葉のほか、英語が公用語として話されている。

世界三大瀑布の一つ、ヴィクトリアの滝があるなど大自然に恵まれている。1964年の独立後、紛争は一度もない、平和な国である。

東京での生活費 世界4位にランクイン

イギリス経済紙エコノミストの調査部門EIUが7月21日に発表した「世界の生活費」ランキングで、生活費が高いイメージのあるニューヨーク(9位)ジュネーブ・パリ(7位)東京が4位にランクイン。

生活費が高いという理由で 日本への留学を諦めさせない

何十倍という競争を勝ち抜き国連大学への合格通知を得ても、経済的な理由で日本への留学を諦める学生がいてはもったいない。
生活費の事を心配せず、勉強に専念し、そして日本の文化へ触れてほしい。そんな願いから開発途上国からの留学生の学生生活を支援するのがjfScholarship奨学金です。

jfScholarship賛助会員として学生を支援しませんか？

あなたの支援がサステナブルな未来を作ります

国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラムを修了した学生は、各分野のリーダーとして地球環境にやさしい社会の構築をめざし世界各国で活躍しています。
あなたもjfScholarship賛助会員として未来のリーダーを支援しませんか？



公益財団法人 国連大学協力会
〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70
TEL 03-5467-1368 FAX 03-5467-1349

国連大学協力会

検索

URL <http://www.jfunu.jp/> E-mail jf@unu.edu

トヨタ自動車株式会社 トヨタ会館・高岡工場

窓からくっきり、FUJISAN!

2017年6月20日朝8時、品川駅から東海道新幹線に乗り、名古屋へ向かいました。昨年は曇天で富士山が望めないjfUNU Study Tourですが、今年は天気恵まれ、車内から富士山を望むことができました。学生たちは、窓から見える富士山の雄大な姿に大興奮。写真を撮ったり、「今度、登ってみようか」と早速登山に思いを馳せていました。

名古屋駅からマイクロバスに乗り、豊田市のトヨタ自動車株式会社のトヨタ会館ミュージアムに向かいました。このミュージアムでは、車開発の歴史資料とともに最新のモデルや、実際にレースを走ったスポーツカー、パーソナルモビリティなどの近未来の乗用車が展示されており、学生たちは皆、目を輝かせていました。

トヨタが取り組むサステナブルな社会の実現とは

続いてトヨタ自動車株式会社のロン・ヘイグ氏の講義があり、学生たちはトヨタのものづくりの文化と企業哲学、また現在同社が取り組んでいる環境に優しい自動車の開発について学びました。学生の一人は「トヨタがグリーンテクノロジーに貢献していること、環境に優しい乗り物の研究開発に力を入れているということがわかり、非常に興味深かった。」と話していました。講義の後も、水素燃料を利用した自動車MIRAIやトヨタ自動車のSDGsへの取り組み、海水を利用した自動車の開発などについて学生からの質問は絶えませんでした。

「良い品良い考”Good Thinking, Good Products”」の精神に共感

昼食後は高岡工場で実際の製造ラインを見学しました。ミスを最小限にし、より効率的かつ高品質な製品を生み出す工夫が随所に見られ、創業者豊田喜一郎氏の「ジャスト・イン・タイム」の創意工夫と「良い品良い考」の考えが脈々と受け継がれ、実践されていました。学生からは「機械と人の力の良い点を組み合わせたところが素晴らしい。」「特筆すべきは日本企業とそこで働く人々が努力を惜しまないこと、そして仕事ぶりが効率的である。」と学生たちの感動の声が聞こえました。



富士山を撮影中



近未来のクルマに試乗



講義のあとにも活発な意見交換が交わされました



名古屋城

トヨタ自動車株式会社高岡工場を後にした一行は、日本の三大名城のひとつであり、金鯱(きんのしゃちほこ)で有名な名古屋城を訪れ、地元名古屋の通訳ボランティアの方々に城内を案内していただきました。

大天守閣にある重要文化財の障壁画や復元されたばかりのきらびやかな表書院を見て、当時の生活に思いを馳せ、また実物大の金鯱の模型や石引き体験を楽しみながら、名古屋城と名古屋の歴史に親しんでいました。学生からは「日本では各地で歴史的建造物の復元や修復作業が行われていることが素晴らしい。」「保存状態の良さからその技術の高さがうかがえる。」といった声が上がっていました。

忍者と前田利家に遭遇!?

名古屋城内には戦国時代にタイムスリップしたかのような演出がたくさん。「皆の衆、本日は名古屋城へよう参った! わしは加賀百万石の大名、前田利家じゃ!」と威勢のいい声が響く。戦国時代の大名として名をさせた前田利家は、21世紀の今日では名古屋おもてなし武将隊として活躍しているようだ。また服部半蔵の精神を受け継ぐ伊賀忍者の末裔が城下町に潜み、名古屋城へ出入りしているらしい。学生たちはNinjaやSamuraiを見つけては駆け寄り、「手裏剣は持っているの?」「武術もちょっとだけ教えて!」と質問攻め。武道の真髄を極めた名将軍から、武士の何たるかを垣間見、また伊賀忍者から雲隠れの術のいろはを学んだようだ。

